

2022年

と き:

9.17▶19

日(土)

日(月・休)

と ころ:

新内ホール

(新得町新内・旧新内小学校)

入場料:1プログラム券▶1500円

1日通し券▶2000円

3日間通し券▶3000円

前夜祭▶1000円(1ドリンク、軽食付)

さよならパーティー▶1000円(1ドリンク、軽食付)

高校生以下▶無料(パーティーは別料金)

\*前売り券は発行していません。入場券は当日受付でお求めください。

第25回

SHINTOKU

空想の森

映画祭  
final

Graphic: NEKOMATAYA

主催:SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会 実行委員長 藤本幸久 共催:北海道新聞帯広支社 後援:新得町、新得町教育委員会  
お問い合わせ▶090-8278-6839(ふじもと) 会場直通(映画祭期間中のみ)▶0156-64-3161(新内ホール) <http://www.kuusounomori.com/>





# 第50 SHINTOKU 空想の森映画祭

前夜祭●16日(金) 18:30~

●オープニング上映

ドキュメンタリー

## 映画●ホシッパアンナー 先祖の魂 故郷へ還る

監督 五十嵐貴博 / 製作著作 浦幌アイヌ協会 / 2019年 / 27分



眠りについた暗い土の中から研究名目で掘り起こされたアイヌの頭骨や四肢の骨、約80体。北海道大学を相手にした長い裁判の末、やっと取戻すことができた先祖の骨だ。そして、先祖の魂が故郷の地に帰ってきた。この遺骨返還は、浦幌アイヌ協会がアイヌ先住権を勝ち得た第一歩でもある。

### ●参加ゲストの紹介

### ●ミニライブ&オープニングパーティー

ライブ

## 宇井ひろし&川本真理



新得や東京や神奈川でもライブを行った二人から、出発点であるこの映画祭に感謝を込めて奏で歌わせてもらいます!

宇井ひろし ■新得町にて有機農業を営みつつ、生活から生まれる音楽はずっと手放さない。人呼んでシンガーソングライター。アコーディオン・ギター・クロマチックハーモニカ、音楽のような畑、畑のような音楽を作っています。



川本真理 ■長野県木曾町在住のピアノ弾き料理人。その場で音をつくる即興演奏や、自然や日常、旅から生まれた曲でピアノ演奏活動をする。2012年ピアノCD「カゼノカミサマノイルトコロ」、2022年『森へゆく日』発表。「はらぺこ」という屋号で料理のケーキタリングや街角ピアノの企画、木曾のローカルマーケットの企画もしている。

## 1日目●17日(土) アイヌ特集

●10:00~12:30

ドキュメンタリー

## 映画●八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵臼コタンへ

監督 藤野知明 / アイヌ語・日本語 / 2017年 / 25分

1931年、形質人類学の研究目的で北海道大学医学部の研究者が浦河町の墓地からアイヌの遺骨を持ち去った。2012年、子孫が持ち去られた先祖の遺骨について話し合うため、北大の総長に面会を求めたが…アイヌとして一度はコタンの地に眠った12人の先祖の遺骨を取りもどし、アイヌプリで再び埋葬するまでの記録。



—「アイヌプリ埋葬」上映終了後—

▶藤野監督とゲストの葛野次雄さんによるトークとQ&A

### 藤野知明(ふじの・ともあき) ■

1966年、札幌生まれ。「動画工房ぞうしま」を浅野由美子と設立。「八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵臼コタンへ」(2017年)~マドリッド・アジア国際映画祭2018にて最優秀ドキュメンタリー作品賞受賞。「とりもどす一囚われのアイヌ遺骨—」(2019年)、「カムイチェブ サケ漁と先住権」(2020年)、「アイヌプリ埋葬・二〇一九・トエペッコタン」(2021年)~東京ドキュメンタリー映画祭2021にて人類学・民俗映像部門・準グランプリ受賞。



### 葛野次雄(くすの・つぎお) ■

1954年、新ひだか町静内東別生まれ。父・辰次郎氏からアイヌ文化を受け継ぎ、各地のカムイノミで祭司を務める他、コタン(集落)とイオル(生活空間)を取り戻すため、日々、奮闘中。葛野辰次郎のアイヌ精神文化に学ぶ会・会長。

## 映画●アイヌプリ埋葬・二〇一九・トエペッコタン

監督 藤野知明 / アイヌ語・日本語 / 2021年 / 64分

製作・著作 葛野辰次郎のアイヌ精神文化に学ぶ会

2019年、新ひだか町静内東別生まれのアイヌ女性、タナヨさんが88歳で亡くなった。その葬儀を従弟の葛野次雄さんは、現在行われなくなったアイヌプリ(アイヌの伝統)に基づく儀式で行うことを決める。近隣に暮らすアイヌの人々が集まり、供物や墓標(クワ)を用意し、コタンに生まれた同胞をコタンの土に還し、天界に送った。



●13:30~15:30

ドキュメンタリー

## 映画●カムイチェブ サケ漁と先住権

監督 藤野知明 / アイヌ語・日本語 / 2020年 / 93分



アイヌは毎年、最初に川に上る鮭(カムイチェブ)を供え神に感謝する伝統儀式カムイチェブノミを行ってきた。紋別アイヌ協会の畠山敏会長はアメリカ先住民と同様、先住権としてのサケ漁を国などに求めてきたが…ひとりのアイヌが行ったサケ漁が日本人に問いかける。先住民族アイヌに先住権は、なぜ無いのか?

—上映終了後—▶藤野監督によるトークとQ&A

●17:00▶ファッションショー

ライブ

## ピリカ・スウォブ(大切なものを入れる箱)



小川早苗さんが55年間つくり続けてきたアイヌの着物の数々。早苗さんの解説とともに、多様なアイヌ紋様の表現と可能性、身につけるアートとしてのアイヌ紋様の美しさをぜひご覧ください。

小川早苗(おがわ・さなえ) ■日高・浦河町出身。アイヌ文化伝承の会手づくりウタラ主宰。長年、アイヌ紋様や刺繍の製作、伝統的着物の復元、普及に取り組む。国内外での展示会も多数。アイヌの子弟も和人の子も、皆でアイヌの紋様に守られて生きる社会が願い。

# すべては、夢みることから始まった。終わりよければ全てよし。

■2022年9月17日(土)・18日(日)・19日(月・休)の3日間

■新得町新内(にいない)ホール●北海道上川郡新得町新内

●20:00▶

ライブ

## ■nin cup (ニンチュブ)ライブ

新月の前の細くなった月のことを、アイヌ語で「nin cup(ニンチュブ)」という。新しい世界へ旅立つ前の晩の宴。アイヌの伝統歌、舞踊、世界五大叙事詩ユカラ、アイヌ語のオリジナル曲等、ギターとベースを合体させてできた【ギタンバ】の音色とともに、森と街、新しい世界への憧れ、心の葛藤を、物語のようにライブを展開してゆく。



### ■メンバー紹介

**豊川容子**●関西を中心に活動し2007年アルバム「door」をリリース。北海道帯広に戻った後、自身のルーツであるアイヌのウボボ(歌)を取り入れ歌い始め、アイヌの舞踊も取り入れたバンド、nin cup(ニンチュブ)のボーカル。

**西村嘉洋(ギタンバ)**●ベースとギターが合わさった自作の楽器ギタンバを操る。

**川上将史**●口承文芸・神事をアイヌ文化継承者 萱野茂氏に師事。

**酒井学**●帯広カムイトウウボボ保存会所属。2017年よりnin cup参加。

**酒井真理**●帯広カムイトウウボボ保存会所属。7歳よりアイヌ古式舞踊を始める。

**吉根加奈**●帯広カムイトウウボボ保存会所属。7歳よりアイヌ古式舞踊を始める。

**ペナンペナン**●川上竜也・川上将史●2015年結成。アイヌ民族初のお笑いコンビ。

## 2日目●18日(日) 原一男監督特集

●10:00~12:15

ドキュメンタリー

### 映画●極私的エロス・恋歌 1974 (1974年/98分)



「私にとって映画はコミュニケーションの方法」という原が、かつて一緒に暮らした子どもまでをなした女を追って沖縄へ行き、彼女が自力出産を行なうまでを捉えた作品。「極私」の極致へと到達した未踏のドキュメンタリーとして、原一男の名を一躍知らしめた問題作。「生きることの原点を描ききった」「見る者を強烈にとらえてゆさぶり続ける恐ろしい映画」「真実を見ることの衝撃」などの絶賛を浴び、日本列島のいたる所で若者の強烈な支持を集めた。

一映画終了後▶原一男監督のトークとQ&A



### 原一男(はら・かずお)■

1945年6月、山口県宇部市生まれ。1972年、小林佐智子と共に疾走プロダクションを設立。同年、『さようならCP』でデビュー。74年には『極私的エロス・恋歌 1974』を発表。87年の『ゆきゆきて、神軍』が大ヒットを記録、世界的に高い評価を得る。94年に『全身小説家』、05年には初の劇映画となる『またの日の知華』を監督。2017年に『ニッポン国VS泉南石綿村』を発表。2019年、ニューヨーク近代美術館(MoMA)にて、全作品が特集上映された。同年、風狂映画舎を設立し、『れいわ一揆』を発表。2020年、『水俣曼荼羅』を完成させた。

●13:30~18:00

ドキュメンタリー

### 映画●ニッポン国 vs 泉南石綿村 (2017年/215分)



大阪・泉南アスベスト工場の元労働者らが国を相手に起こした訴訟の行く末を記録したドキュメンタリー作品。明治時代から石綿(アスベスト)産業が盛んとなった大阪・泉南地域。アスベストの健康被害を被った石綿工場の元従業員や近隣住民たちが国を相手に国家賠償請求訴訟を起こした。その裁判闘争や原告たちの人間模様を8年間にわたり記録した。

一映 ▶原一男監督のトークとQ&A

●19:30~22:00

ドキュメンタリー

### 映画●ゆきゆきて、神軍 (1987年/122分)



87年の日本映画界を震撼させた驚愕の作品。天皇の戦争責任に迫る過激なアンチキリスト・奥崎謙三を追った衝撃のドキュメンタリー。神戸市で妻とバッテリー商を営む奥崎謙三は、たったひとりの「神軍平等兵」として、「神軍」の旗たなびく車に乗り、今日も日本列島を疾駆する。生き残った元兵士たちの口から戦後36年目にしてはじめて、驚くべき事件の真実と戦争の実態が明かされる…。平和ニッポンを鮮やかに過激に撃ち抜いた原一男渾身のヒット・ドキュメンタリー。

一映画終了後▶原一男監督のトークとQ&A

## 3日目●19日(月・休)

●10:00~12:00

実験映画

### 映画●生態系シリーズ 小池照男さん追悼上映

映画作品の上映やワークショップで、空想の森映画祭に深くお付き合いいただいた小池照男さんが今年3月に亡くなりました。本来は、2020年9月のSHINTOKU空想の森映画祭で小池さんの映画個展を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの流行で延期を余儀なくされました。すい臓がんで闘病中だった小池さんは、私たちが映画祭を延期している間にも精力的に活動され、2020年は神戸、2022年2月には京都で個展を開催、



▲生態系20 STONE

「這ってでも行く」と会場にも通われたそうです。「生態系シリーズ」は、作品数30作以上、その素材となる写真も50万枚以上という小池照男さんのライフワークです。映像個展に代わり、40年にわたる小池さんの作家生活の代表作「生態系シリーズ」を上映し、追悼いたします。



### 小池照男(こいけ・てるお)■

1970年代(20代)、笛吹き太鼓演奏を目指すのが、果たせぬ夢のままイランにて石油コンビナート建設作業員として従事。1981年、映画作品の中に可能性を見つけ出し映画作品「生態系シリーズ」制作開始。映画祭出品・個展・グループ展多数。RETINA映画祭(ハンガリー)審査員。ヴォワイアンシネマテーク参加。神戸にて「Personal Vision2001」「映像のコスモロジー」など企画展を主宰。



■2022年9月17日(土)・18日(日)・19日(月・休)の3日間 ■新得町新内(にいない)ホール●北海道上川郡新得町新内

●13:00～15:00

講演

講演●戦争と平和の最前線—宮古島からのレポート

宮古島を含め、琉球弧の島々の自衛隊軍事要塞化が急速に強行され、新たな戦争準備が進行中です。沖縄が今度は日米共同の軍事拠点として、日米両国の「捨石」の戦場とされようとしています。ミサイル基地と変貌していく宮古島の軍事化の現状と宮古島市民の抵抗の闘いを映像とお話を通してお伝えしたいと思います。



清水早子(しみず・はやこ) ■1995年より宮古島在住、島の子どもたちと向き合う教育産業に就きながら島の軍事化反対運動を続けて四半世紀。宮古島ピースアクション実行委員会代表、ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会事務局長。



●15:30～18:00

映像レポート

映像レポート●沖縄の戦後●影山あさ子・藤本幸久

20年間撮影してきた沖縄。影山あさ子+藤本幸久が製作中の映画『勝ちゃん』の映像とトークで、沖縄戦後史をレポートします。ゲストは映画の主人公、山城善勝さん(勝ちゃん)。1944年生まれの勝ちゃんの人生が、実は沖縄戦後史そのもの。勝ちゃんの三線の演奏、美しい国頭の中映像もお楽しみに！



影山あさ子・藤本幸久 ■

2004年から共同で沖縄取材を続けている。沖縄をテーマにした連作に『Marines Go Home』、『ラブ沖縄』、『圧殺の海』、『圧殺の海第2章 辺野古』、『高江 - 森が泣いている』1&2、『This is a 海兵隊』、『This is a オスプレイ』、『辺野古ゲート前の人びと』、『宮古島からの SOS』、『デニーが勝った!』、『SAVE HENOKO』など。その他にDVDで沖縄ニュースリアルシリーズ全17作を製作。現在、圧殺の海第3章『沖縄の未来』(仮題)、『勝ちゃん』(仮題)、『遺骨を掘る人』(仮題)、『世界の先住民と先住権』(仮題) 製作中。



ゲスト■山城善勝(やましる・よしかつ/勝ちゃん)



1944年生まれの現役海人(漁師)。沖縄戦の最中、ガマで死ぬところを奇跡的に生き延びる。米軍占領下の沖縄では、宮森小学校への米軍機墜落、コザ暴動など様々な事件・事故が起こるが、それはすべて、勝ちゃんの目の前で起きたことだった。焼け野原の沖縄で、戦果アギヤーも、ハスラーもやってきたが、母親の喜び顔を見たくて、海で魚や貝を捕って帰ったことが、海人(うみんちゅ)・山城善勝さんの原体験。世界で唯一の漁法「一人追い込み漁」を編み出し、沖縄本島北部・国頭の手で生きる現役海人。2004-2005年は辺野古新基地建設に反対し、現場で海人のリーダーとして活躍。三線の名手。

●10:00～13:00▶ワークショップ

実習

ミルクの物性からつながるモンゴル・世界の畜産文化圏

▶あなたも家に帰ったら作る人!バター、クリームチーズ、ホエイシチュウ…



物性とは、変わることなき物の性質のことです。言葉や宗教が違って、家畜文化圏の人は、ミルクの物性を掴み、使いこなし、一万年かけて乳文化を作ってきました。ぜひ、あなたも、キッチンで乳製品を作り、乳文化を創る人になってください。



講師:今岡良子(いまおか・りょうこ) ■

大阪大学 人文学研究科 准教授・モンゴル遊牧地域論

プログラム早見表

9/16(金)★前夜祭 18:30～

映画●ホシッパアンナー 先祖の魂 故郷へ還る

ミニライブ●宇井ひろし&川本真理 ●オープニングパーティー

9/17(土)★1日目 アイヌ特集

10:00～映画●八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵臼コタンへ

映画●アイヌプリ埋葬・二〇一九・トエペッコタン

映画終了後▶藤野監督と葛野次雄さんのトークとQ&A

13:30～映画●カムイチュブ サケ漁と先住権

映画終了後▶藤野監督のトークとQ&A

17:00～●小川早苗ファッションショー

ピリカ・スウォップ(大切なものを入れる箱)

20:00～●nin cup (ニンチュブ)ライブ

9/18(日)★2日目 原一男監督特集

10:00～映画●極私的エロス・恋歌1974

映画終了後▶原一男監督のトークとQ&A

13:30～映画●ニッポン国vs泉南石綿村

映画終了後▶原一男監督のトークとQ&A

19:30～映画●ゆきゆきて、神軍 映画終了後▶原一男監督のトークとQ&A

9/19(月・休)★3日目

10:00～映画●生態系シリーズ 小池照男さん追悼上映

13:00～講演●戦争と平和の最前線—宮古島からのレポート▶清水早子

15:30～映像レポート●沖縄の戦後▶影山あさ子・藤本幸久

ゲスト■山城善勝さん

10:00～ワークショップ 講師■今岡良子

●ミルクの物性からつながるモンゴル・世界の畜産文化圏

さよならパーティー ●19:00～(参加費●¥1,000)

☆今年も十勝・新得の美味しいものがいっぱい。

食べて、飲んで、歌って、踊って……



★JR新得駅からは約10km、歩くこと2時間程かかります。JRで新得に到着された方は0156-64-3161(会場直通)まで電話ください。タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!